東北６県と整備局が創る
河川・ダム・砂防・海岸・水道・下水道
事業の新たな連携
「個性の大地」

第６６号（令和８年１月）
東北地方整備局河川部
地域河川課 発行

挨　　拶

上下水道調整官
猿田 誠



令和７年４月１日付けで上下水道調整官を拝命いたしました猿田と申します。この『個性の大地』に関わるのは6年ぶり2回目となります。

初めに、東北6県および仙台市の皆様におかれましては、日頃より国土交通行政へのご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

令和6年度より水道行政が国土交通省へ移管され、2年目を迎えました。河川行政と上下水道行政が一体となった総合水管理の推進に向け取り組んでまいります。

水道行政においては、人口減少や施設の老朽化、耐震化の遅れなど、事業者の経営環境は厳しさを増しています。こうした課題に対応するため、広域連携や施設統合の支援、災害時の応急給水体制の強化、施設更新に向けた技術的助言などを通じて、地域の水道事業者との連携を深めてまいります。

下水道行政においても、浸水対策や水質保全、施設の老朽化対策など多岐にわたる課題があります。特に近年、下水道管路の破損に起因する事故が各地で発生しており、住民の安全確保の観点からも、予防保全型の維持管理の重要性が高まっています。これらの事故は、都市部のみならず地方都市でも発生しており、管路の健全性評価や更新計画の策定支援が急務となっております。

また、記録的豪雨による内水氾濫のリスクが高まっている中、河川と下水道の連携による浸水対策の強化が重要です。氾濫想定区域内に位置する下水道処理施設も多く、流域全体での水利用のあり方を見直す必要があります。

今後は、上下水道と河川の連携による「流域治水」の深化とともに、地域の皆様とのコミュニケーションをしっかりとることを重視し、現地確認やWeb会議などを活用しながら、効率的かつ丁寧な行政運営に努めてまいります。

「流域のみんなで」を合言葉に、河川・上下水道の連携による総合水管理の実現に向けて、引き続きご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

目次

トピックス(整備局)

・令和７年　東北地方の渇水対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.2

・「令和７年度　多自然川づくり研修会及び地方ブロック担当者会議」を開催・・　P.4

・ダム工事総括管理技術者会（ＣＭＥＤ会）との意見交換会・・・・・・　P.5

・令和７年度　河川・ダム管理技術検討会について　・・・・・・・・・・　P.6

・「全国なぎさシンポジウム」の開催について・・・・・・・・・・・・・・・　P.7

・水道事業における災害復旧事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.8

トピックス(各県・仙台市)

式典関係

・岩手県：平成28年台風第10号災害からの復旧・復興記念式典について　・・P.9

・宮城県：川内沢ダム　定礎式を行いました・・・・・・・・・・・・・・・　P.11

東北六県・仙台市の話題・出来事

・青森県：あおもり流域治水キャンペーンの開催について・・・・・・・・・　P.12

・岩手県：岩手県における流域治水の取組について・・・・・・・・・・・・　P.13

・宮城県：県内ダムの貯水状況（渇水）・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.15

・秋田県：太平川　河川激甚災害対策特別緊急事業について・・・・・・・・　P.16

・山形県：荒瀬川土砂・洪水氾濫対策について・・・・・・・・・・・・・・・　P.18

・福島県：雪崩災害防止対策の推進について・・・・・・・・・・・・・・・・　P.20

・仙台市：第４１回大都市河川実務者会議・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.22

若手職員の紹介

・青森県・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.23

おかげさまで個性の大地は２５周年

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.24

トピックス
整備局より　令和7年　東北地方の渇水対応

【概況】

令和７年６月から８月の東北地方は平均気温比で＋３．１℃、降水量は平年の６７％と高温少雨が長期的に継続。東北地方整備局所管の１級河川１２水系では利水基準点１６地点のうち、１０地点で渇水基準量を下回り、また鳴子ダム（国管理）等では最低水位を下回り、利水容量の貯水率が０％になるなど近年希に見る大規模な渇水となっております。



写真１　渇水状況（磐井川）



写真２　渇水状況（最上川）

■河川流況(6月～9月)

水系名	河川名	基準地点	渇水基準流量 m^3/s	渇水基準流量を下回った日数	最小流量 m^3/s
阿武隈川	阿武隈川	舘矢間	40.00	0日間	43.06
名取川	名取川	名取橋	1.50	9日間	0.86
	広瀬川	広瀬橋	1.00	50日間	0.34
鳴瀬川	鳴瀬川	中流堰下流	2.00	0日間	2.20
	吉田川	落合	1.50	37日間	0.70
北上川	北上川	明治橋	20.00	0日間	27.19
		狐禅寺	70.00	1日間	69.36
	江合川	荒雄	2.51	6日間	1.08
馬淵川	馬淵川	剣吉	16.00	0日間	16.83
高瀬川	高瀬川	上野	2.00	0日間	6.05
岩木川	岩木川	五所川原	19.00	17日間	16.95
米代川	米代川	二ツ井	45.00	18日間	32.13
雄物川	雄物川	椿川	80.00	23日間	65.86
子吉川	子吉川	宮内	11.00	39日間	2.01
最上川	最上川	高屋	60.00	11日間	40.38
赤川	赤川	熊出	3.00	0日間	3.54

※最小流量は、毎日9時時点の流量から算出しています。
※流量は、速報値となります。

表１　１級水系の河川流況

【渇水対策の取組み】

東北地方整備局管内では７月７日に名取川水系で「渇水対策体制（注意）」が設置されたことを皮切りに、最終的に全１０水系で渇水支部（警戒又は注意）を設置し、情報共有及び関係機関との緊密な調整や連携により、生業や環境の悪化軽減に努め、また、東北地方整備局では「大切な一滴　限りある水　みなで一層の節水を！」の標語を作成し、道路情報表示板やポスター掲示により、国民に対する現状の周知や節水意識の啓発を図りました。



写真３　渇水情報連絡会



写真４　道路情報表示板による啓発



図１　ポスター掲示による啓発

更に、東北地方整備局及び一部の県ではホームページによるダム貯水率の公開や『SNS』の活用によるダムの貯水状況、下流への補給状況などを広く公開し、河川管理者及びダム管理者の取り組みを積極的にPRしました。

【東北地方整備局】
公式SNS投稿回数：116回



図２　東北地方整備局X



図３　東北地方整備局 Facebook



図４　秋田県 Instagram

【ダムが発揮した効果】

ダムからの安定した水供給

東北地方整備局及び県が管理するダムでは、最も水を必要とする時期に切れ目無く下流へ補給を行っており、特に鳴子ダムや、県が管理する一部のダムでは、関係者の同意のもと最低水位以下の容量を活用した補給（異常渇水補給）も実施しました。なお、東北地方整備局が管理するダムにおいて、今回の渇水では約２億９，７１０万㎥と、東京ドーム約２４０杯分、国民全員が約１１日間生活できる水量を河川に補給した計算となります。

柔軟な水利使用許可による供給量の確保

また、ダムからの補給にあたり、江合川　岩堂沢ダム（宮城県管理）の現行水利権における取水量及び年間総取水量の増量を臨時的に許可するなど、東北地方整備局としては迅速かつ柔軟に水利権の変更対応も実施しました。

	利水補給量(万㎥)
津軽ダム（西目屋村）	６，０００
御所ダム（盛岡市）	９００
胆沢ダム（奥州市）	８，７００
鳴子ダム（大崎市）	２，５００
玉川ダム（仙北市）	９，６００
森吉山ダム（北秋田市）	７８０
長井ダム（長井市）	１，２３０
計	２億９７１０万㎥

表２　国管理ダムの補給量



写真５　鳴子ダム（国）補給状況



写真６　入畑ダム（岩手県）貯水状況

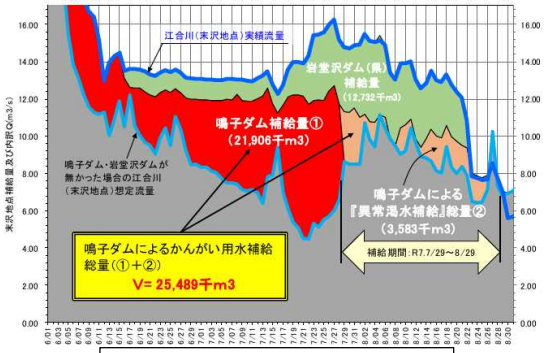


図５　鳴子ダムの補給効果

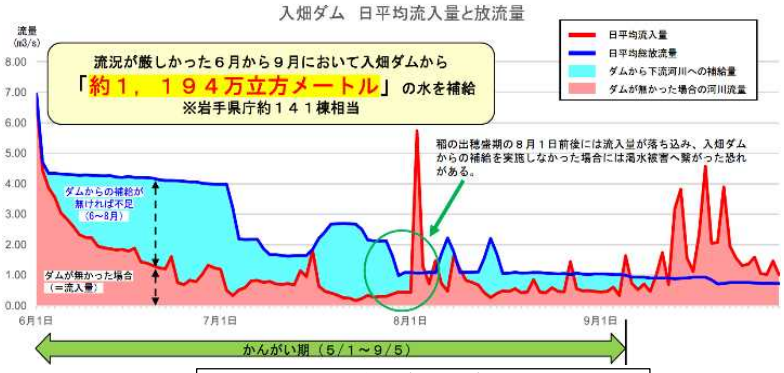


図６　入畑ダム（岩手県）の補給効果

令和７年、東北地方では稀に見る渇水となりましたが、東北地方整備局や各県が管理するダムで実施した下流への補給により、生業への影響を最小限に軽減することができ、特に稲作における出穂期に安定した水量の供給を実施した結果、米作被害を軽減させ、全国における米の供給不足軽減に寄与できたと考えております。

【地域の声】

☆大崎土地改良区（宮城県）「鳴子ダムが無ければ大変な事態となっていた。大崎耕土約１万haの水田で100億円を超える損失を防いでくれた」

☆胆沢平野土地改良区（岩手県）「昔は６月２０日を過ぎるとダムに水が無くなり、番水を繰り返して来たが、今年は渇水であるとはいえ８月１９日まで減水すること無く給水することが出来たので、稲作への影響は少ないと考えている。」

☆奥州金ケ崎行政事務組合（岩手県）「貯水率が低下していく中で、上水道の容量を確保し補給を継続して頂いていることに感謝している。」



※出展

東北地方整備局　渇水対応関連情報
https://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00037/k00290/river-hp/kasen/damu/kassuitaiou.html

岩手県　渇水におけるダムの効果
https://www.pref.iwate.jp/kendozukuri/kasensabou/dam/1064743.html

トピックス

整備局より　「令和7年度　多自然川づくり研修会及び地方ブロック担当者会議」を開催

多自然川づくりに関する技術力の向上及び技術者の交流に資することを目的として、「多自然川づくり地方ブロック担当者会議（発表会）」は平成14年度より、「多自然川づくり研修会」は平成24年度より、国・都道府県・政令市の河川担当者を対象に毎年開催しております。

令和5年度からは研修会及び担当者会議（発表会）を同日開催にて実施しており、令和7年度は東北地方整備局を会場にWeb会議との併用にて開催しました。

研修会では、国立研究法人　土木研究所　田中上席研究員より「ネイチャーポジティブな川づくりに向けて」の表題で講話を頂き、ネイチャーポジティブを達成するためには、全ての河川管理行為において多自然川づくりを徹底していくことが重要であることや、河川環境の新たな調査技術として環境DNA調査やリモートセンシングを使った河道内植生の把握について紹介頂きました。

担当者会議では直轄河川関係事務所及び各県の河川担当者からあわせて16題の発表を頂きました。最優秀賞、優秀賞に選ばれた3題（下表、参照）については、令和8年2月3日に開催が予定されている「令和7年度　全国多自然川づくり会議」に推薦されます。

ご多忙の中、会議に参加頂いた発表者・関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

■開催概要

日　時：令和7年11月7日（金）11:00～17:00
場　所：東北地方整備局　水災害予報センター（WEB併用）
参加者：国・県・仙台市の河川担当者　81名が出席
内　容：【第１部】多自然川づくり研修会
　　【第２部】多自然川づくり地方ブロック担当者会議

■受賞者一覧

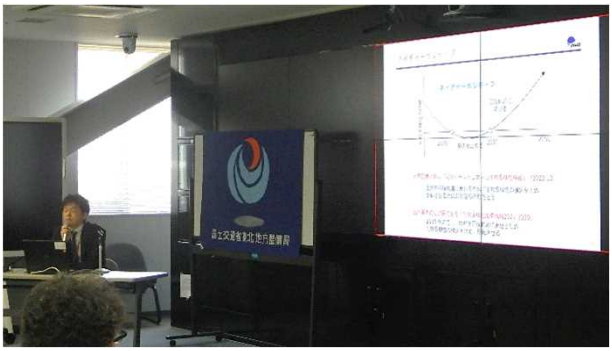
【最優秀賞】

論題	発表者		河川名
藤塚地区かわまちづくりにおける新たな河川環境の創出について	仙台河川国道事務所　名取川出張所　技官	えんどう　しおり 遠藤　汐梨	なとりがわ　なとりがわ 名取川水系　名取川

【優秀賞】

論題	発表者		河川名
岩木川魚のすみかの再生と保全	青森河川国道事務所　流域治水課　技官	とのさき　まこと 外崎　真	いわきがわ　いわきがわ 岩木川水系　岩木川
荒瀬川の改良復旧における工夫について	山形県　県土整備部　河川課　技師	いのうえ　たいし 井上　大志	にっこうがわ　あらせがわ 日向川水系　荒瀬川

■開催状況



▲研修会の様子



▲担当者会議（発表会）の様子

トピックス

整備局より　ダム工事総括管理技術者会（CMED会）との意見交換会

東北地方整備局では、ダム建設工事における働き方改革やダム積算基準改定などの様々な情勢を踏まえ、今後のダム工事の円滑，適正な実施を図ることを目的に「ダム工事総括管理技術者会（ＣＭＥＤ会）」との意見交換会を開催しております。

昨年度に引き続き、令和７年度も補助建設ダム発注者の立場として、青森県（駒込ダム建設）及び宮城県（川内沢ダム建設）にもご参加いただき、各ダム建設事業に関する概要説明のほか、下記議題に関する意見交換を行いました。

【開催概要】

開催日：令和７年１２月１７日（水）
場　所：東北地方整備局　大会議室
出席者：東北地方整備局　河川部長、河川保全管理官、河川計画課、地域河川課、河川工事課
　　青森県　河川砂防課、宮城県　河川課
　　ダム工事総括管理技術者会

【主な議題】

・働き方改革について
・ダムの設計変更項目の後進ダムへのフィードバックについて
・人材育成、確保、技術の伝承について
・現状の発注方式について（ECI方式含む）について



▲意見交換状況



▲ダム事業紹介

両県におかれましては、多忙のなかご出席いただき、ありがとうございました。

【補助ダム建設事業の紹介】

■駒込（こまごめ）ダム（二級河川堤川水系　駒込川）
　○場所：青森県青森市大字駒込地内
　○形式：重力式コンクリートダム
　　堤高８４．５ｍ、堤頂長２９０．１ｍ
　○目的：洪水調節、流水の正常な機能維持、発電
　○ダム本体工事：平成３１年度～



■川内沢（かわうちさわ）ダム（一級河川名取川水系　川内沢川）
　○場所：宮城県名取市愛島笠島地内
　○形式：重力式コンクリートダム
　　堤高３６．７ｍ、堤頂長１４０．０ｍ
　○目的：洪水調節、流水の正常な機能維持
　○ダム本体工事：令和４年度～
　※令和７年１２月１２日にダム本体コンクリートの最終打設が完了しました！



トピックス

整備局より　令和7年度　河川･ダム管理技術検討会について

令和７年１２月１５日（月）に、河川・ダムの管理業務（危機管理も含む）に携わる国土交通省、東北６県、仙台市職員を対象に、管理業務における技術的な課題や取組事例等を発表し、意見交換を実施する検討会を開催しました。

令和７年度は発表された２９題から４題が最優秀賞、３題が優秀賞に選ばれました。
発表された各県職員の皆様、聴講された皆様、お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

最後に、各県、仙台市には検討会で発表された論題について、組織内の河川・ダムの管理業務に携わる職員の皆様に共有いただき、今後の管理業務にお役立てください。



▲検討会の様子

令和7年度　河川･ダム管理技術検討会の受賞者一覧（最優秀賞4名、優秀賞3名）

No.	テーマ	発表論題	発表者	
最優秀賞				
3	占用･地域連携	官民が連携したダムツーリズムの可能性に関する一考察 －森吉ダム特別見学ツアーを事例として－	秋田県　建設部 河川砂防課　主査	保坂　尚志
10	河川･ダム管理	胆沢ダム融雪水を活用したハイブリッドダムの取り組みについて	北上川ダム統合管理事務所 胆沢ダム管理支所　支所長	小原　竜光
16	河川･ダム管理	H28災小本川河川改修の完了と流木補足対策について	岩手県　県土整備部 河川課　技師	田上　翔吾
23	管理の効率化･コスト縮減･新技術	温水除草システムを用いた堤防の維持管理	北上川下流河川事務所 大崎出張所　管理第二係長	横山　誠弥
優秀賞				
7	危機管理対応 （災害･事故等）	浅瀬石川ダムの地震時点検マニュアルの作成について	岩木川ダム統合管理事務所 管理課　技官	小屋畑　太志
18	河川･ダム管理	体験型堤防実習の現状と可能性	東北技術事務所 品質調査課　品質管理係長	髙森　優花
24	管理の効率化･コスト縮減･新技術	特定都市河川流域に係る雨水浸透阻害行為の審査における課題と取り組みについて	宮城県　土木部 河川課　技師	小野寺　柊

※発表番号順

トピックス

整備局より　「全国なぎさシンポジウム」の開催について

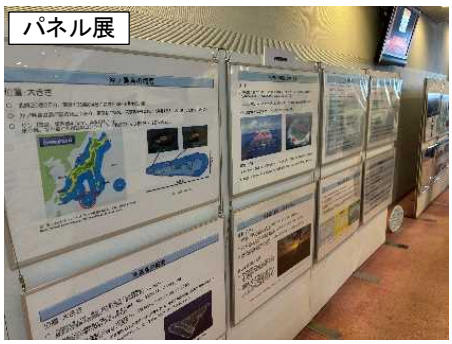
「全国なぎさシンポジウム」は、海と陸との接点である「なぎさ」を軸に、人となぎさとの関わりや人と海との共生のあり方を各分野の方々により様々な視点から語り合う場として、昭和６３年の神奈川県開催を皮切りに、海岸を有する３９都道府県のうち、これまで３１都道県で開催されております。

令和７年度は東京都で開催され、国土交通省　海岸室多田室長より「気候変動時代の海岸の防護・利用・環境」と題し、海水面上昇に対する対策等の講演をいただいたほか、特別講演として東京海洋大学客員教授　さかなクンから「さかなクンのギョギョッとびっくりお魚教室」として、豊富な海洋生物の知識を紹介いただきました。

令和８年度は岩手県で開催されますので、各県の海岸担当の皆様は是非ご参加いただき、本シンポジウムを盛り上げていただきたいと思います。

開催状況【なぎさシンポジウムin東京　未来へのバトンパス～人と海をつなぐ東京のなぎさ～】













【北海道・東北ブロックの開催状況】

開催期間	開催県	テーマ
平成 3 年 10 月 30～31 日	宮城県	海にやさしい“なぎさ”人にやさしい“なぎさ”を求めて
平成 13 年 9 月 17～19 日	青森県	縄文から未来への架け橋“あおもり・なぎさ”
平成 17 年 10 月 18～19 日	山形県	き―いれだうみ、なぎさの庄内 ～みんなで守り次世代に引き継いでいこう～
平成 21 年 10 月 15～16 日	秋田県	未来に引き継ぐきれいななぎさと・秋田のたから
平成 25 年 10 月 17～18 日	北海道	北の大地の恵み、それば、なぎさの恵み
令和 3 年 11 月 11～12 日	宮城県	つなぐ復興となぎさと～受け継がれる宮城の海辺～
令和 8 年	岩手県	

トピックス

整備局より　水道事業における災害復旧事業について

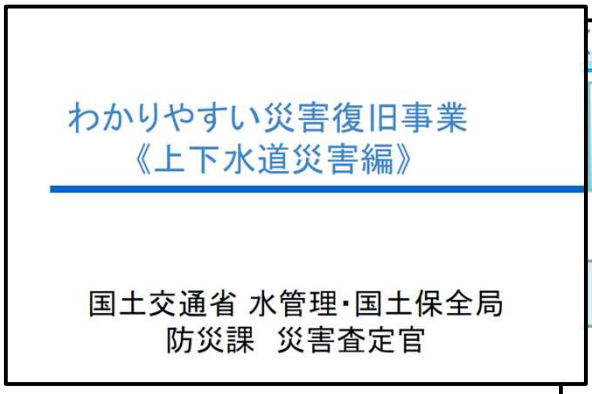
水道事業の令和６年４月１日以降に被災した水道施設の災害復旧事業は、河川、道路、下水道等と同じく「公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法」（負担法）が適用されます。

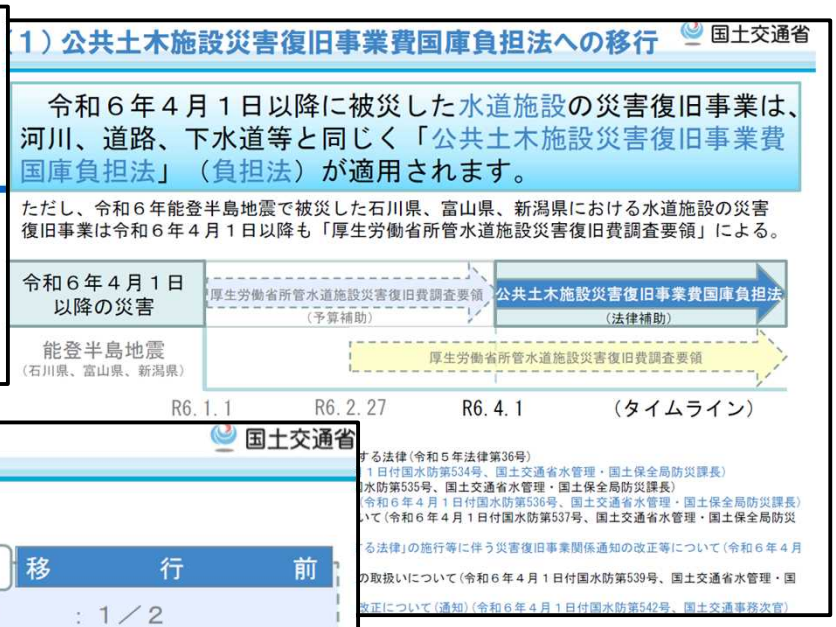
従前の制度から公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法に変更となったことによる主な変更点についてご紹介いたします。

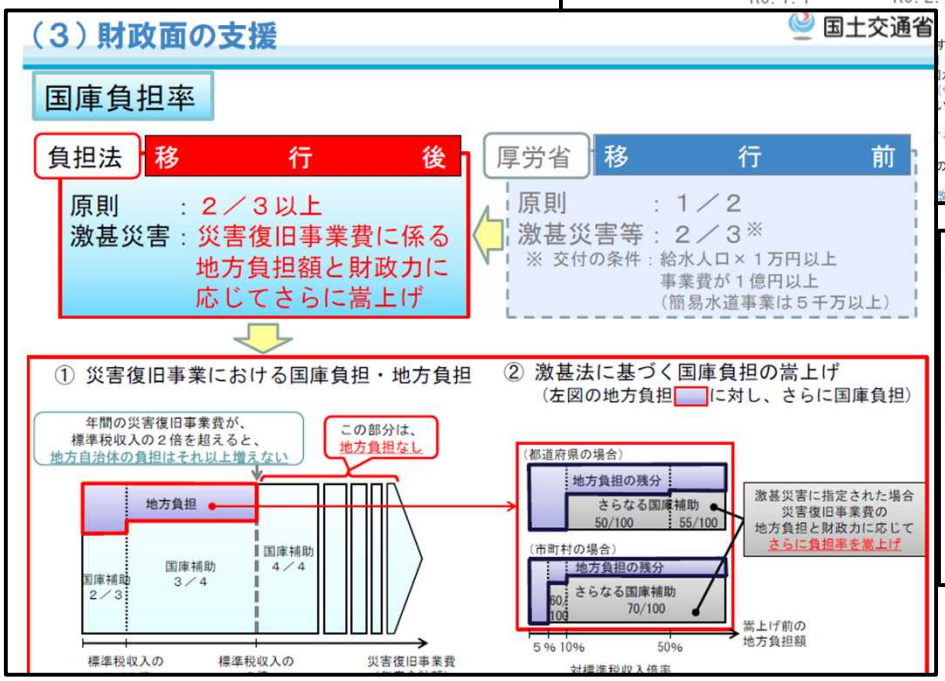
○主な変更点

国庫負担率	：原則2/3(激甚災害時はさらに嵩上げ)
１箇所工事の費用の限度額	：都道府県、指定市：120万円以上、市町村： 60万円以上へ変更。
設計変更	：工事の設計要件の変動等に伴い設計変更可能。
手続き簡素化	：要件により机上査定（リモート）
事前打合せ	：査定の迅速な処理及び査定において手戻り防止。

詳細については、下記URL『わかりやすい災害復旧事業《上下水道災害編》』よりご確認願います。
〈https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/river/content/001850386.pdf〉









トピックス　式典関係

岩手県　平成28年台風第10号災害からの復旧・復興記念式典について

岩手県では、平成28年台風第10号災害からの復旧・復興事業（道路・河川・砂防）を進めてきましたが、発災から９年余りの歳月を経て、令和７年10月末に全ての事業が完了しました。これを記念し、令和７年11月１日(土)、岩泉町民会館にて「復旧・復興記念式典」を開催しました。

知事をはじめ、来賓約70名が出席し、事業の完了を祝いました。


主催者挨拶（達増知事）


来賓祝辞（鈴木衆議院議員）


来賓祝辞（木戸口参議院議員）


来賓祝辞（城内県議会議長）


来賓祝辞
（国土交通省 水管理・国土保全局 矢崎防災課長）


御礼の言葉（中居岩泉町長）


くす玉開披

○被災状況

平成28年８月30日、統計史上初めて東北地方の太平洋側から岩手県沿岸部に上陸した台風第10号では、総降雨量が約300ｍｍとなる記録的な豪雨によって河川の氾濫や土砂災害が数多く発生し、岩泉町をはじめ各地に甚大な被害をもたらしました。



岩泉町内の被災状況
浸水面積：617ha
人的被害：死亡26名（関連死含む）
住家被害：全壊1,068棟、半壊742棟
土木施設等被害額：439億円
※出典：平成28年水害統計調査ほか

○事業概要

これを受けて、岩手県では本災害からの復旧・復興のため、河川改修や砂防堰堤整備、道路嵩上げなどのハード対策を進めたほか、災害時の住民の迅速な避難行動につなげるため、危機管理型水位計や簡易型河川監視カメラの設置、洪水浸水想定区域や水位周知河川の指定、ホットラインの運用などソフト施策にも取り組んできました。



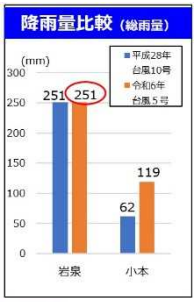




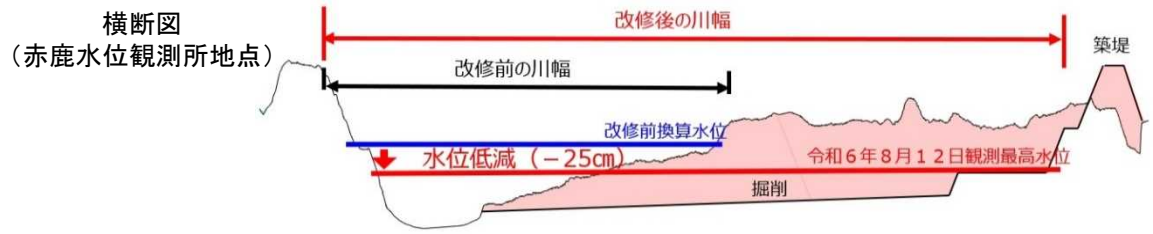
○整備効果

令和６年８月の台風第５号では、平成28年台風第10号と同規模の総雨量を記録しましたが、小本川では治水対策の進捗により、河川氾濫による家屋等の浸水被害はありませんでした。









○今後の取組

引き続き、岩手県では民間企業や自主防災協議会などとも連携し、要配慮者の避難支援体制の強化や、防災士等地域リーダーの育成、防災教育など、流域のあらゆる関係者が一体となって取り組む「流域治水」等により、防災体制の改善・強化に取り組んでまいりますので、今後とも皆様のご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。

トピックス　式典関係

宮城県　川内沢ダム　定礎式を行いました

1. 概要

令和7年6月8日（日曜日）、名取市愛島笠島地内で建設が進められている「川内沢ダム」の本体工事に関する「定礎式」（宮城県主催）を執り行いました。

川内沢ダムは、一級河川名取川水系川内沢川の洪水調節および流水の正常な機能の維持を目的とした治水ダムで、沿川地域の洪水被害を軽減するとともに、渇水時にも安定的に灌漑用水を確保するなど、河川環境の保全に寄与します。今回、ダム本体のコンクリート打設量が5割を超えたことを受け、定礎石をダムに埋納しました。

この定礎式は川内沢ダム本体工事における重要な節目となります。令和8年度の完成を目指し、引き続き発注者と受注者が一丸となって、川内沢ダム建設事業の推進に取り組んでまいります。

2. 川内沢ダム（5月30日時点状況および概要）



河川名	一級河川名取川水系川内沢川
位置	名取市愛島笠島
目的	洪水調節 流水の正常な機能の維持
湛水面積	0.18 k㎡
形式	重力式コンクリートダム
堤高	36.7 m
堤頂長	140.0 m
堤体積	51,000 ㎥
総貯水容量	1,790,000 ㎥

3. 実施状況



埋納之儀



万歳三唱

青森県

あおもり流域治水キャンペーンの開催について

青森県では、県民ひとりひとりに「流域治水」を知ってもらい、水災害を自分事と捉えて行動してもらうことを目的として、「あおもり流域治水県民運動」を推進しており、この一環として、主に地域住民を対象に、流域治水や水災害の自分事化を促し、防災意識の醸成・向上を図っていくため、「あおもり流域治水キャンペーン」を開催しております。

今年度は２箇所の商業施設で、国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所、高瀬川河川事務所、岩木川ダム統合管理事務所にも参画いただき、流域治水に関するパネル展示、ＶＲを用いた３Ｄハザードマップコーナー、ダム効果や土砂災害対策について学ぶ模型実験・展示により、幅広い世代の県民に向けＰＲを行うことができました。

この場をお借りして、お礼申し上げます。

＜あおもり流域治水キャンペーンの概要＞

【第1弾】

・日時　令和７年８月９日（土）
　　10時00分～17時00分
・場所　イオンモール下田（おいらせ町）

【第2弾】

・日時　令和７年８月２３日（土）
　　10時00分～18時00分
・場所　ヒロロ（弘前市）

【内容】

①流域治水に関するパネル展示
②VRを用いた3Dハザードマップコーナー
③ダム効果を学ぶ模型実験
④土砂災害対策の模型展示
⑤デジタルサイネージによる
　流域治水PR動画の放送　等

流域治水のパネル展示



3Dハザードマップコーナー



ダム効果を学ぶ模型実験



土砂災害対策の模型展示



岩手県　岩手県における流域治水の取組について



本県では、県内の全48水系で「流域治水プロジェクト」を策定し、河川改修等のハード対策と洪水浸水想定区域の指定等のソフト施策を着実に進めるとともに、シンポジウムやパネル展の開催等による住民の意識啓発など「流域治水の自分事化」に取り組んでいます。

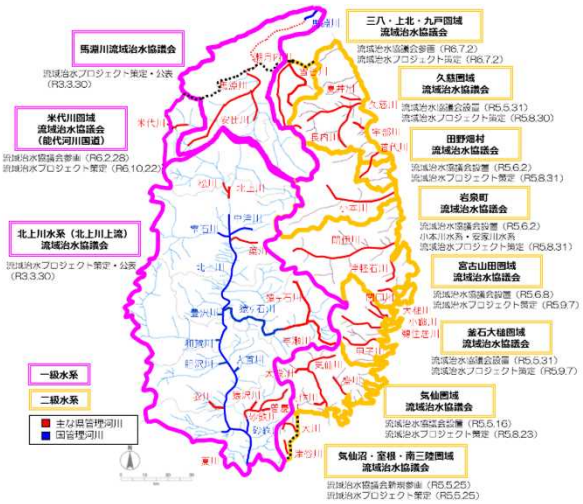
本県の「流域治水」の取組状況について、紹介します。今後も、取組を継続していきます。

◂写真：流域治水シンポジウム

1　流域治水の全県展開

本県では、流域治水の取組の全県展開を進め、令和６年10月に、県内の全48水系において流域治水プロジェクトの策定が完了しました。

今後は、流域治水協議会を通じ各主体の取組の理解・共有を促し、関係者間の連携を図るとともに、プロジェクトのフォローアップを行っていきます。



▸図：流域治水プロジェクト策定状況

2　小本川河川改修の完了と防災情報の充実

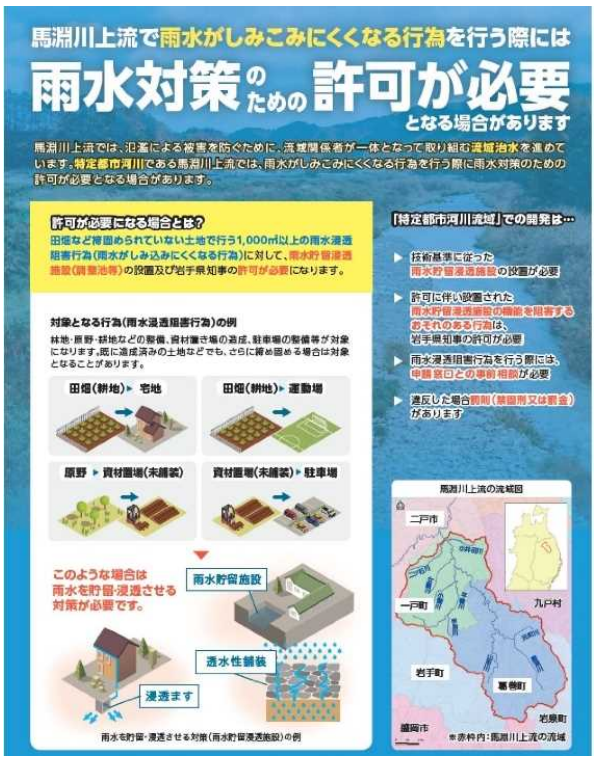
平成28年台風第10号で甚大な被害を受けた岩泉町の小本川は、災害復旧助成事業と河川激甚災害対策特別緊急事業を導入し、令和７年10月に全ての関連事業が完了しました。小本川では、災害危険区域の指定と組み合わせた輪中堤や宅地嵩上げによる河川整備、道路の嵩上げなど、流域治水の考え方を踏まえた治水対策に取り組みました。詳細は、本号掲載の別記事を御覧ください。

県内では、ハード対策と合わせて防災情報の充実強化にも取り組んでいます。このうち、洪水浸水想定区域については、令和７年12月現在で指定対象294河川のうち213河川を指定済みであり、令和８年３月までに指定を完了させる予定です。

3　流域治水の深化～馬淵川特定都市河川の指定～

流域治水の深化の取組のひとつとして、令和７年10月、馬淵川上流等の計９河川について、県内で初めてとなる「特定都市河川」に指定しました。

令和４年８月豪雨による浸水被害を踏まえ、河川整備の加速化など浸水被害対策を流域一体で進めていくものであり、今後、「流域水害対策計画」を策定予定です。



▸図：作成した馬淵川特定都市河川リーフレット

４ 流域治水の自分事化～シンポジウムやパネル展の開催～

本県では、「流域治水の自分事化」に向け、まずは「流域治水」を知る機会を増やす目的で、令和７年度に以下の取組を行いました。

(1)流域治水協議会主催「希望郷いわて　流域治水シンポジウム2025」

12月14日、本県で初となる流域治水をテーマにしたシンポジウム「希望郷いわて　流域治水シンポジウム2025」を、全県民を対象として岩泉町を会場に開催しました。

NHKニュース「おはよう日本」に出演中の気象予報士、近藤奈央さんを講師に迎え、アナウンサーで自身も気象予報士と防災士の資格を持つ神山浩樹さんの司会で、取組紹介やパネルディスカッションにより、みんなで流域治水の自分事化について考えました。

パネリストには、地元防災士連絡協議会会長を務め地域の防災リーダーとして活躍する鈴木悠太さん、地元小学生に防災教室を開いている岩泉高等学校２年生の佐々木駿斗さん・竹花悠真さん、国土交通省国土地理院で災害伝承に取り組んでいる元岩手県県土整備部長の中平善伸さんに参加いただき、「流域治水とは？」から始まり、「自分事化に向けて、これから取り組みたいこと」などを議論しました。

また、「流域治水オフィシャルサポーター」登録の地元企業も共催者として参加しています。



▲写真：パネルディスカッションの様子


▲写真：来場者の様子（岩手県岩泉町民会館）

(2) 県政テレビ番組　いわて！わんこ広報室「水災害を自分事化して自ら行動しよう！」

県政テレビ番組「いわて！わんこ広報室」では、「岩手が目指す将来像の実現化」などのテーマを中心に、毎週、岩手県の取組を紹介しています。

６月は、「水災害の自分事化」をテーマに取り上げ、リスク情報の把握や大雨時の情報収集について、県民に周知しました。（YouTube検索「わんこ広報室　自分事化」で視聴可能です。）

(3) 県立図書館との連携展示「岩手の流域治水パネル展2025」

８月、岩手県立図書館において、流域治水のパネル展「岩手の流域治水パネル展2025～激甚化・頻発化する水災害にみんなで備える～」を開催しました。

「流域治水とは？」「令和６年台風第５号等における治水施設の効果」などのパネルを展示し、同時に、図書館所蔵資料のうち、流域治水や水災害に関連する書籍等も連携して展示していただきました。



▲写真：パネル展と関連図書展示

宮城県　県内ダムの貯水状況（渇水）

１．概要

今年度は梅雨時期から少雨と高温が続き、6月から8月の降水量が過去10年平均の約3割程度となり、県内の河川は水量の少ない状態となりました。

国管理の鳴子ダムでは一時的に貯水率が0%となったほか、県管理の17ダムのうち8ダムでは、供用開始以降、過去最低の貯水位となるなど極めて厳しい状況となりました。

このため、国や地方自治体、水利権者などの関係機関で構成する渇水情報連絡会や渇水対策本部を設置し、河川流況を注視しながら、情報共有や番水等節水の呼びかけにより、適切な渇水調整を行ってまいりました。

この取組の継続と9月に入ってからの降雨により、河川流況やダムの貯水率が回復し、渇水による危機的状況を回避することができました。

２．栗駒ダムの状況

令和7年6月上旬から貯水位が減少し、8月8日に流入量見合いの放流に切り替えました。

令和5年8月8日頃（平年の状況）



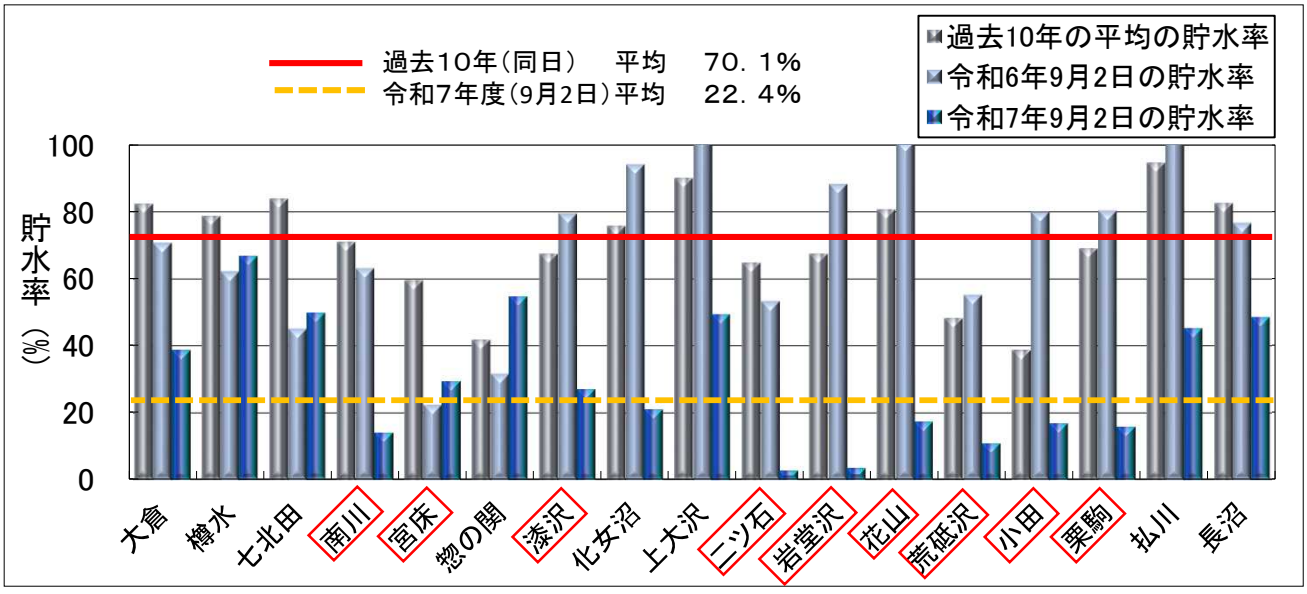
貯水位：E.L.187.19m
貯水率：72.2%

令和7年8月8日15:00時点（渇水の状況）



貯水位：E.L.175.53m
貯水率：1.9%

３．県内管理ダム　令和7年度最低平均貯水率



：ダムの目的に、かんがい用水、工業用水、水道用水、発電のいずれかを含み、かつ利水貯水率が30%を下回ったダム

秋田県　◆太平川 河川激甚災害対策特別緊急事業について

秋田県　建設部　河川砂防課

1　出水概要

令和５年７月豪雨では前線の影響により秋田県内の多くの雨量観測所で４８時間雨量が観測史上１位となる記録的な大雨となり、多いところで400mm/48hを超過しました。

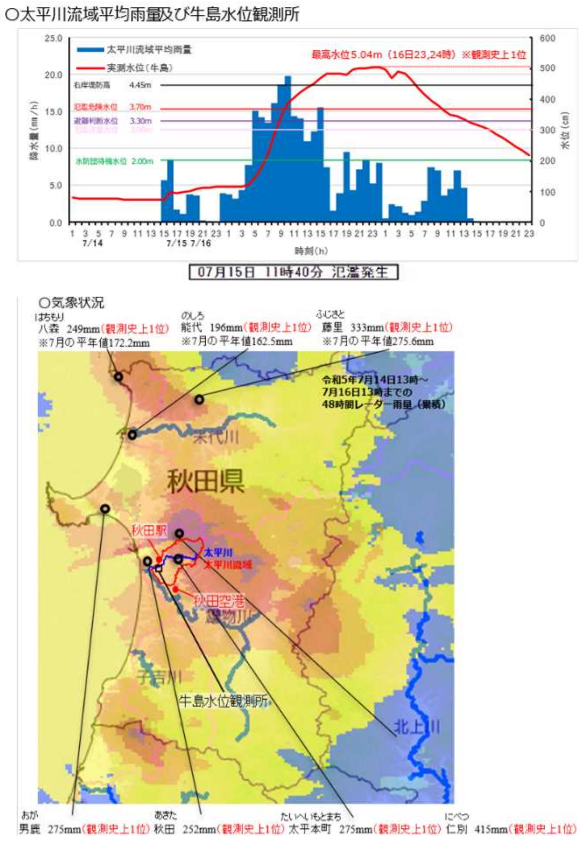
また、牛島観測所において最高水位が5.04mに達し、氾濫危険水位3.70mを大きく上回り既往最高水位4.25m（H30.5）も超過しました。

これにより、太平川流域において床上浸水2,534戸、床下浸水1,816戸の甚大な被害が発生しました。

2　事業概要

太平川においては、平成２７年に河川整備計画を変更し、河川改修を進めていましたが、令和５年洪水を契機に、同年１１月、国から「河川激甚災害対策特別緊急事業」の採択を受け、事業の加速化を図っております。

事業区間４．６ｋｍのうち下流２．３ｋｍ区間は令和６年７月に工事契約締結し、現在工事を進めております。また残り２．３ｋｍ区間も令年７年６月に着手しており、浸水被害軽減のため引き続き工事を速やかに進めてまいります。

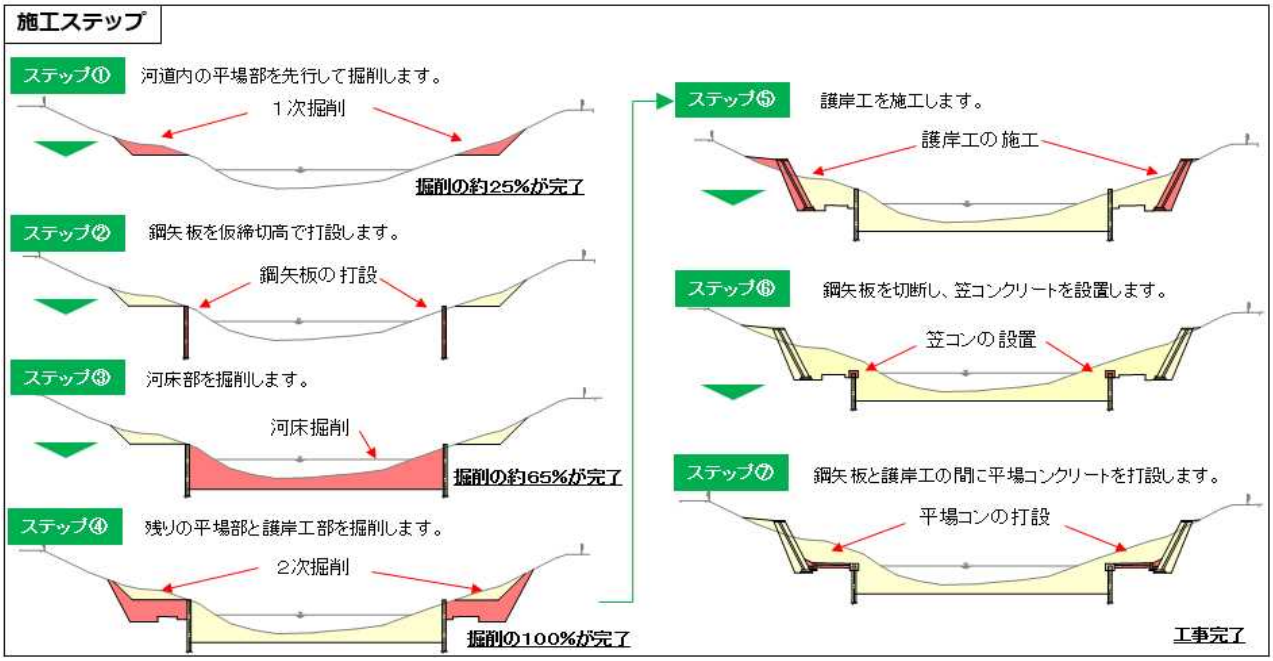




3　事業進捗状況

（1）施工順序

現場における施工フローは、以下のとおり進めております。



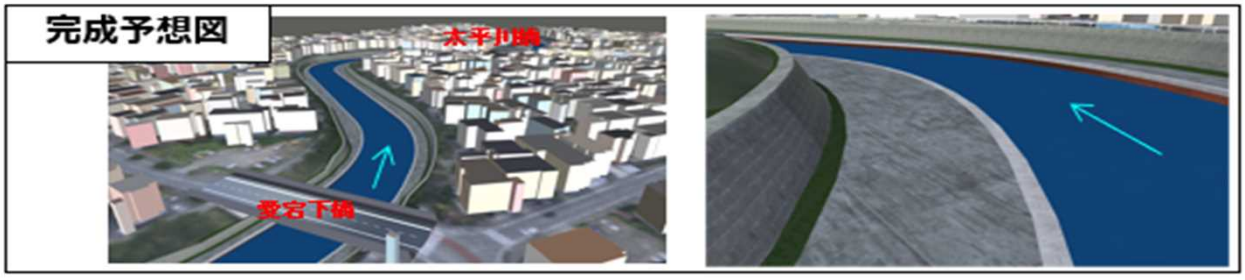
（2）施工状況写真





（3）今後の取組

太平川流域においては引き続き河川改修によるハード対策の推進のほか、流域の関係機関と連携し、土地利用規制等のソフト対策も一体となった、総合的な浸水被害対策を推進してまいります。



山形県　荒瀬川土砂・洪水氾濫対策について

１．はじめに

山形県では令和６年７月24日から26日の大雨により、最上・庄内地域を中心に甚大な被害が発生しました。なかでも酒田市を流れる荒瀬川においては、大規模な土砂・洪水氾濫が発生し、甚大な被害が発生しています。本資料では、荒瀬川流域の被災状況と、災害関連緊急砂防事業の進捗ならびに土砂・洪水氾濫対策の計画についてご紹介します。

※令和７年12月時点で、令和８年度新規補助事業採択に向けて協議中。

２．流域概要・被災状況

荒瀬川は流域面積95.1㎢の二級河川であり、流域内には人家1,263戸、国道344号や多くの公共施設があります。

令和６年７月24日から26日にかけて、酒田大沢観測所では総雨量402㎜、最大時間雨量49㎜を観測しました。この豪雨による荒瀬川の増水に加え、支川から大量の土砂や流木が流入したため、土砂・洪水氾濫が起こり、多数の家屋浸水、道路被害、農地被害が発生しました。



令和6年7月の大雨による被災状況
（荒瀬川）

３．小屋渕川災害関連緊急砂防事業

令和６年７月25日には、荒瀬川の支川である小屋渕川（酒田市北青沢地内）で、大規模な土石流が発生しました。

住民は事前に避難していたため、人的被害はありませんでしたが、集落内は土砂で埋め尽くされ、人家15戸が被害を受けました。

令和６年９月11日付けで災害関連緊急砂防事業が採択されており、事業概要と現在の進捗は以下のとおりです。

・仮設流木止め：令和７年９月完成
・仮設ブロック堰堤：令和７年12月末完成予定
・砂防堰堤（本設）：令和７年11月着工



令和6年7月の大雨による被災状況
（小屋渕川）


令和6年7月の大雨による被災状況
（小屋渕川）


仮設ブロック堰堤施工状況（R7.12月末完成予定）
（小屋渕川）

４．土砂・洪水氾濫対策計画

本計画は、河川管理者が施行する荒瀬川災害復旧助成事業と連携し、荒瀬川の支川に砂防堰堤や流木捕捉工を整備することで、令和６年７月の豪雨と同規模程度の降雨が生じた場合でも、土砂・洪水氾濫による浸水被害を防止することを目的としています。

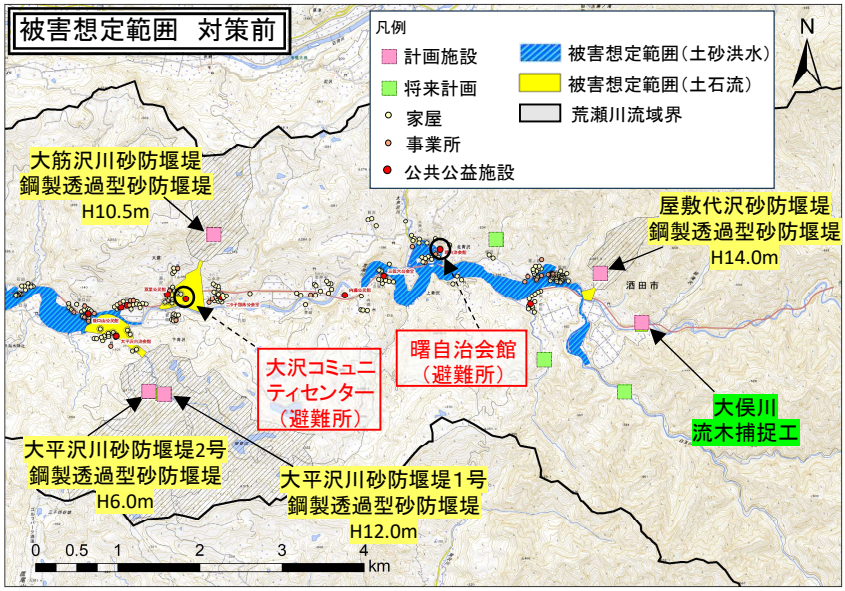
土砂・洪水氾濫による浸水被害想定範囲は、河川改良後に計画規模の降雨で土砂・洪水氾濫が発生した場合を想定したシミュレーションにより設定しました。１次元河床変動計算、２次元氾濫解析の結果、土砂・洪水氾濫による浸水被害を解消するには、砂防えん堤７基と流木捕捉工１基の整備が必要であると判明しました。

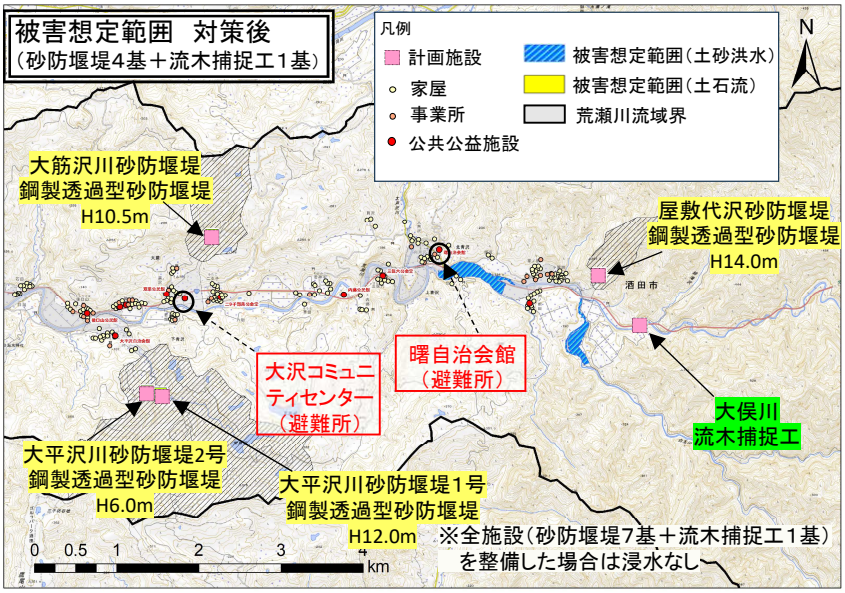
当面は、事業効果を早期に発現させるため、まずは人家と公共施設の被害をゼロにすることを目指し、砂防堰堤４基（屋敷代沢砂防堰堤１基、大筋沢川砂防堰堤１基、大平沢川砂防堰堤２基）と大俣川流木捕捉工１基を整備する計画です。なお、将来計画として残る砂防堰堤３基の整備により、土砂・洪水氾濫はすべて解消される見込みです。











５．おわりに

近年の気象変動に伴い豪雨が頻繁に発生しており、今後も大規模な土砂災害の発生が懸念されます。荒瀬川流域では、令和６年７月の豪雨により荒廃が進み、不安定な土砂や流木が多く堆積しているため、再度災害を防止し、地域住民の安全と安心を確保すべく、早期の事業完了を目指してまいります。

福島県　雪崩災害防止対策の推進について

1. はじめに

福島県では、令和７年２月４日から会津地方を中心に記録的な大雪となり、本県では昭和38年以来62年ぶりとなる災害救助法を適用するとともに、雪崩による人家被害や旅館の孤立状態が生じるなどの災害に見舞われました。

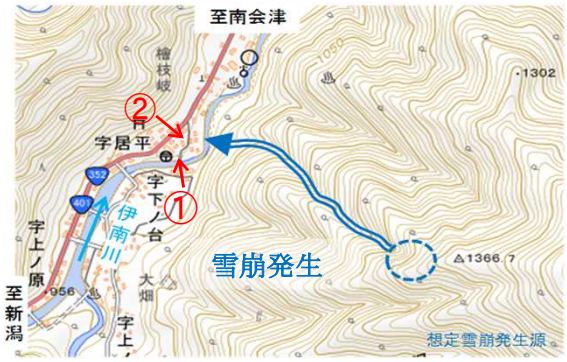
令和７年２月９日には檜枝岐村下ノ台地区において、斜面の上部が発生源とみられる大規模な表層雪崩が発生し、一級河川伊南川を越え人家に到達し、住宅の１階部分に雪が流れ込む被害が発生しました。

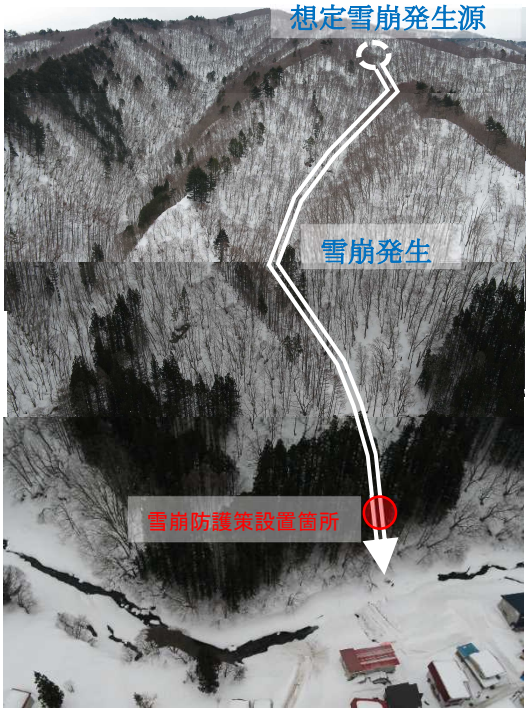
2. 災害関連緊急雪崩対策事業

福島県では、令和７年２月10日に国立研究開発法人防災科学技術研究所とともに現地調査を実施し、雪崩発生源や今後の対策等について、助言をいただきました。さらに、再度災害を防止するため、令和７年２月20日までに応急対策（雪堤）を実施するとともに、国と災害関連緊急雪崩対策事業の事業採択に向けた協議を進め、令和７年３月13日に採択（23年ぶり）となり、令和7年内に雪崩防護柵の設置を完了しました。引き続き、下ノ台地区における雪崩対策施設（災関フォロー）の整備を進めてまいります。

下ノ台地区（檜枝岐村）の集落雪崩被害











3. 雪崩災害防止セミナーの開催

国土交通省と都道府県では、防災・減災の取組の一環として、国民一人ひとりが雪崩災害の防止及び被害の軽減の重要性について認識し、理解が深められるよう、毎年12月１日から７日を「雪崩防災週間」として定め、様々な取組を実施しております。その一環として、雪崩災害について理解を深めることを目的としたセミナーを福島県にて開催しました。

【開催日時等】

日　時：令和８年１月13日（火）　13:30～16:40
会　場：会津若松市生涯学習総合センター（會津稽古堂）
参加者：93人

【内容】

（１）表彰式
雪崩災害防止に関して顕著な功績があった個人に対して表彰を行いました。
今年度は、上石勲氏、町田敬氏、山口悟氏の計３名が受賞されました。

（２）雪崩災害防止セミナー
新潟大学の河島克久教授による基調講演や雪崩研究などの話題提供、「気候変動下の雪崩災害とその対応」と題したパネルディスカッションを行いました。

【開催状況写真】


来賓挨拶（國友砂防部長）


受賞者（上石氏）


受賞者（町田氏）


受賞者（山口氏）


基調講演（河島教授）


話題提供（山口氏）


話題提供（藤平氏）



パネルディスカッション


会場の様子

仙台市　◆　第41回大都市河川実務者会議

令和７年１０月３０日から３１日にかけて、全国２１の政令指定都市及び東京都、国土交通省治水課を本市にお迎えし、第４１回大都市河川実務者会議が行われました。

本会議は、都市河川事業の施行に係る実務上の諸問題に関し、都市相互の意見交換及び調査研究等を行うことにより事業の推進を図ることを目的とし、毎年開催されております。開催都市職員を含め、毎年約５０人程度参加のある歴史ある会議であり、本年は４４名ご出席いただきました。

１日目は、各都市及び東京都からの提案議題についての会議を行いました。国土交通省治水課山本企画専門官より、河川国道事務所でのご経験や、特定都市河川の業務に係る取り組み、地元住民の方との意見交換を経て様々な取り組みを行った経験など、非常に実践的なご意見をいただき、各都市からは実際の業務にあたっての有効な取り組み事例の共有など、非常に有意義な会議となりました。

２日目は現地視察を行い、宮城県施工の旧笊川排水機場建設現場の見学ののち、かわまちづくりの事例として、名取市より、一級河川名取川の最下流部にあたるかわまちてらす閖上にて、事業のご説明をいただきました。また、現在本市において進めている、かわまちてらす閖上対岸にある藤塚地区のかわまちづくり事業（貞山運河沿岸で市が進める海岸公園と一体となった国による水辺整備）について、参加の皆様へご説明いたしました。全国でも例の少ない、河川の両岸でのかわまちづくりの事業であることや、かわまち大賞を受賞した閖上の賑わいづくりの成功体験、名取川両岸のかわまちづくりの連携など、全国においても先進的な事例であることから、参加都市の皆様より非常に有意義な視察だったとのご意見をいただきました。

会議開催にあたっては準備段階より、国土交通省治水課並びに東京都、各都市の皆様より多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして、感謝を申し上げます。






会議及び現場視察状況

若手職員の紹介

◆災害に備える
田名部　理
青森県　県土整備部　河川砂防課　河川・海岸グループ
平成２９年入庁（総合土木）
→ 令和５年～６年東北地整出向 → 令和７年青森県へ



今年度改めて青森県に採用されたため、（一応）若手職員として寄稿させていただきます。
入庁してから、河川管理、ダム、補助予算担当等（東北地整へ出向）をしておりましたが、今年度は初めて海岸事業の担当となりました。水防担当から離れて、少しほっとしていたのですが、2025年は、東日本大震災以来の津波警報が２度青森県に発表されました。幸い両津波とも土木施設に大きな影響はありませんでしたが、海岸担当だからといって油断することなく災害に備えなければならないと痛感しました。今年度も残り短いですが、最後まで油断せずに備えていきたいと思います。
最後になりますが、東北地整ならびに東北６県の皆様には引き続きお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

◆常に先を考え行動する
堤　千尋
青森県　県土整備部　河川砂防課　企画・防災グループ
令和４年入庁（総合土木）



私は、中小規模河川の洪水浸水想定区域図の作成や水防、災害復旧事業に関する業務を担当しております。
近年、災害が激甚化・頻発化している中で、本県においても今年度の８月の豪雨災害では、十和田市休屋で観測史上最大となる24時間雨量246㎜を観測、また、12月には青森県東方沖を震源とする最大震度6強の地震が発生し、公共土木施設の被害も多数確認されました。
災害担当として今年１年間を振り返り、常に災害が発生するかもしれないという心構えが重要であると改めて実感いたしました。
今後とも県民のみなさまが安全で安心した生活がおくれるよう、日々努めていきたいと思います。

◆長い年月で～過去を抱く、今を生きる、未来を考える～
小笠原　悠人
青森県　県土整備部　河川砂防課　企画・防災グループ
令和３年国土交通省入省 → 令和７年出向



今年度、東北地方整備局から出向で参りました。
流域治水の推進に関することや、広報などを担当しています。
昨日の失敗や今日の小さな挑戦も、長い年月の中で自分の一部となっていくと信じ、青森県の防災・減災に貢献できるよう、皆様と共存共栄で邁進して参ります。
今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

おかげさまで、個性の大地は２５周年

平成１３年１月(2001)中央省庁再編により国土交通省　東北地方整備局が誕生しました。
併せて補助事業に関する予算業務や技術業務を担当する組織として、東北地方整備局に地域河川課が新設されております。

『個性の大地』は、補助事業に携わる方々の情報共有を目的として、翌月の平成１３年（2001）２月に創刊され、各機関の皆様のおかげで令和８年（2026）で２５年目の節目を迎えることができました。
今後も情報共有の場として末永く継続していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

編集後記

本紙『個性の大地』は、今号をもちまして創刊25周年という大きな節目を迎えました。

四半世紀もの長きにわたり、河川・ダム・砂防・海岸・上下水道に携わる皆さまの知恵と経験、そして地域を思う温かな眼差しに支えられ、ここまで歩んでくることができました。改めて深く感謝申し上げます。

創刊当初より、本紙は「地域の声をつなぎ、現場の取組を未来へ届ける」という思いを大切にしてきました。25年の歳月を振り返ると、技術も制度も大きく変化する中で、地域の個性を活かし、共に知恵を出し合って前に進んできた軌跡そのものが、この紙面に刻まれてきたことを実感します。

今号では、25年の積み重ねがまさに“現在進行形”で結実していることを示すように、地域の皆さまと連携した多彩な取り組みを多数紹介しました。どの記事も、これからの次の10年、次の25年に向けて、新たな歩みを後押しする力となることを願っています。

これからも『個性の大地』は、地域の挑戦と知恵を共有する場として、その役割を一層高めてまいります。

次の25年をともに創っていく仲間として、皆さまの変わらぬご支援とご投稿を心よりお願い申し上げます。

バックナンバーはこちら

https://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00037/k00290/river-hp/kasen/forefront/kosei/index.html